

「エッセイ」

2023・9・20 重枝 一郎

近年、日本でも採用する大学が増えている「総合型選抜入試（旧 AO 入試）」は、学力だけでなく、生徒の能力や適性がわかる面接や小論文が重視される。この総合型選抜は米国でも採用されている。その米国の総合型選抜の話聞いた。

米国の総合型選抜は、合格するために重要だと言われているのが「推薦状」と「エッセイ」である。「情熱をもっている人」「チャレンジ精神のある人」「リーダーシップを発揮できる人」を見極めるためにこの2つを重視する。

「推薦状」には表面的なことだけではダメで、一步踏み込んだ内容を書く必要がある。例えば「この生徒は成績優秀である」だけでなく、なぜ成績が良いのか、そのためにどのようなことをしてきたのかなど人物像に触れなくてはならない。となると、授業や部活動で、教員と生徒が普段から良好なコミュニケーションをとっておく必要がある。米国の高校は4年制なので日本よりも長い準備期間がある。また、スクールカウンセラーが進路指導を行うのが通常で、入学当初からカウンセラーを通じて「推薦状」のことなど生徒にしっかり伝えられている。私も以前米国のスクールカウンセラーの視察に行った人からこのことを聞いていた。生徒の進路指導は担任ではなくスクールカウンセラーが行っている。カウンセラーは、教員と違って授業評価をしない「ナナメの関係」の存在なのでとてもいいと思った。そのため、一つの学校に数人のカウンセラーが、カウンセラーの個人部屋に常駐している。

教員が「推薦状」を書くには、日頃より生徒とコミュニケーションをとって、主体的な学びを引き起こすインタラクティブな授業を増やさないと、その生徒について深く知ることはできない。一方で、「推薦状」の内容は生徒の合否を左右するため、書く内容が思いつかない生徒に頼まれたときにはきっぱりと断わることもある。

さて、もう一つ重要なのが「エッセイ」である。テーマは大学によって異なるが、情熱を注いでいるもの、特技スキル、挑戦にまつわる内容が多く、必然的に生徒が歩んできたストーリーがわかる。「エッセイ」の内容例として・・・

- ◆「あなたのしたチャレンジは何ですか？ どう克服し何を学びましたか？」
- ◆「あなたはどんなリスクをとりましたか？ 何にチャレンジしましたか？」
- ◆「常識的なことについて『これは違うんじゃないかな』と思ったことはありますか？ それに対してどのようなアプローチをとりましたか？」
- ◆「思いがけずにハッピーになったことや、他の人に感謝されたことはありますか？ それは何ですか？」

このような問いをイメージして学校生活を送ることは、自然とチャレンジマインドを促すことになる。また、一人の考えだけでは未熟さから脱皮することはできない。だからいろんな人の意見や考えを聞く機会が必要になる。学校の授業や活動ではそういう機会をつくるのが大切になる。自分以外の意見を聞いて、様々な視点を手に入れることが「エッセイ」を広げ深める。

生徒には好奇心を大事にしてほしい。共感を生むアイデアを出せるようになってほしい。立ち上がって行動してほしい。

上の内容例の質問に対して、本校の生徒たちは何を書くだらう。書かせてみたら何が変わる気がする。

土曜日に海外の大学に進学した卒業生とその祖母様が来校され、中高に多額の寄付をしていただきました。卒業時に久家教頭が担任でその出会いをととても感謝されてのことでした。ちょうどこの文を書いているとき、その卒業生と谷口先生が校長室にあいさつに来てくれて楽しい会話をさせていただきました。その会話からも本校への愛が感じられます。

詳しくは久家教頭まで。